見つけよう　話そう　作ろう　私たちの「夢ある町　福崎町」
－どんな人（障害のある人・お年寄り・子供・外国人）にも夢ある町をめざして－

兵庫県神崎郡福崎町立福崎小学校　６年生担当 松本正樹
発信Ｗｅｂ　http://fukusaki-hyg.ed.jp/~fk/6nen/
キーワード　地域学習，町づくり，テレビ会議，ゲームソフト

１．はじめに

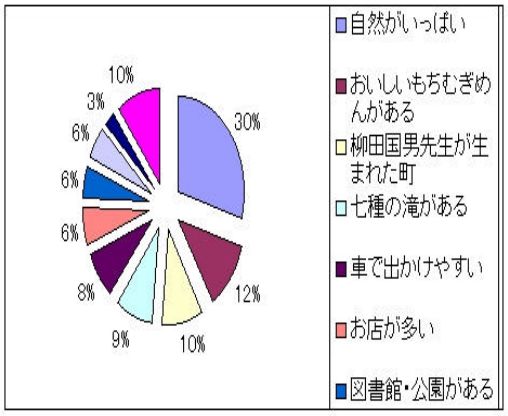
今まで接してきた地域の「人・環境・生活」と子どもたちの創造する未来を総合的な学習の課題として広げ，私たちの町を夢のある町に作り上げるプロジェクトとして推進してきた。夢と現実とをつなぐ接点として町づくりゲームソフトウェアを使うことで，多方面にわたる町づくりの課題に広げることができた。

また，一人ひとりが抱いた夢の実現に向けて，他の地域とＷｅｂ・テレビ会議を使った交流をとおし，比較しながら地域を見つめ感動が持てる子どもたちを育ててきた。抽象的な見方を現実の町づくりにつなげる課題設定が，子どもたちの学習の広がりの大きなポイントである。子どもたちの夢の町プロジェクトは町長に提案し，評価を得て，夢の実現に進んでいきたいと考えている。

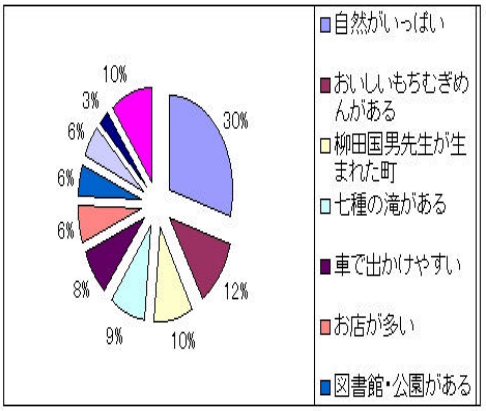
２．企画の推進にあたって

福崎町は，姫路のベッドタウンとしてまた，交通の要衝として着実な発展を遂げてきた町である。最近は大型店舗が進出し，都市型の発展を遂げている東部方面と農村の面影をまだ残してる西部方面の異なった表情を持つ町でもある。歴史を語ることができる文化的な面を持ち，豊かな自然あふれる景勝地としての指定も受けている。近年は福祉施設も充実し，「福祉・環境・生活」にとすばらしい町として発展を遂げてきた。福崎町交流発信として子どもたちが取り組んだ調査からも，それぞれの年齢層による福崎町の良さを知ることができる。

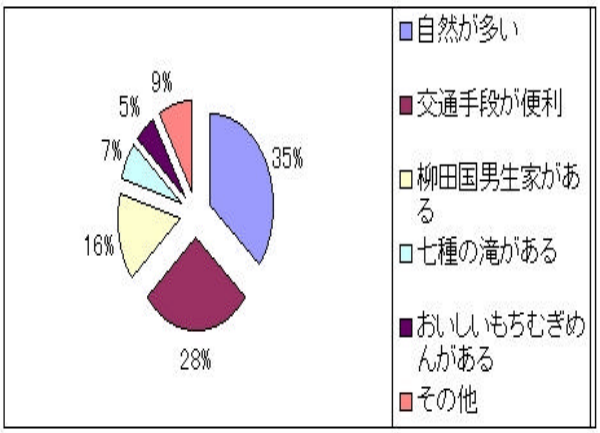
４・５・６年生



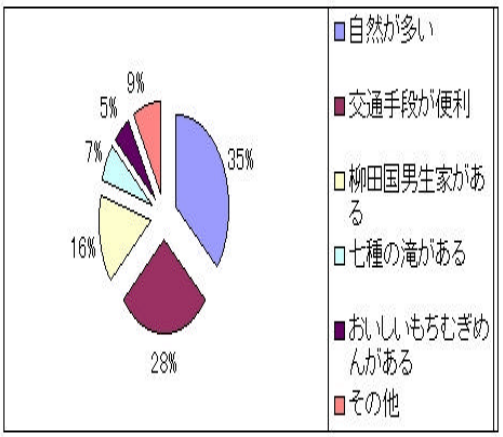
祖父母



父親



母親



３．実践した内容

（１）課題設定にむけて　（見つける）

1)福崎町いいところさがし

まず，課題として身近な人の福崎町に対する思いを調べる「福崎町いいところさがし」からすすめ，今まで気づかなかった視点に導いた。子どもたちの視点での地域の見方と祖父母・父母・兄姉・弟妹と年齢層を分けた調査では大きなちが

いがあることに気づいたようだった。調査結果は，クラス別に表現方法を工夫した。各クラス間の交流発表を行うことで，それぞれの学習視点を深めることができた。

2)ゲームソフトで町づくり体験

次に，児童間の交流を持ち課題を追求する目的で，夢と現実とをつなぐ接点としてシムシティというまちづくりゲームソフトを活用した。現実社会と同じ問題を投げかけ，それをどのように解決できるかによって町の発展が変わってくるシステムとなってる。子どもたちのえがく理想的なまちと現実社会の大きな相違点をコンピュータソフトを使うことで，仮想世界での問題解決を図り，現実の福崎町町づくり課題設定に役立ててきた。子どもたちからは，　・公害を出さないように，発電はソーラーと風力だけにしたのに，地震や台風，洪水，竜巻などの災害が起きた。　・電気や水道は，絶対に必要だけどお金がかかる。　・災害がどんどん出てきたり，お金がたくさん必要なことにおどろいた。　・人が集まってくれるようにするには，いっぱい考えることがあるんだということがわかった。　・鉄道を町の真ん中に通したら渋滞が減るなんて知らなかった。　・赤字になったので，税金を増やしたら，人口が減ってしまった。　・病院や学校・警察などがないと安心できる町として人が集まってくれないという意見が多数出た。夢と現実の接点になったのではないかと思われる。

3)他の地域を知る

一人ひとりが抱いた夢の実現に向けて，他の地域との交流・比較を通して，地域を見つめ，感動が持てる実践をすすめた。宮崎県の交流校とテレビ会議をとおして私たちの町のいいところの発表交流することで，他の地域の町の様子を知ることができた。　また，最近は外国の方が多く生活されていることから，外国の方にも住みよい町づくりを課題としているグループは，先輩の卒業生が留学されているブラジルのコレジオブラジリア小学校とホームページ・掲示板・メールなどを活用しながら交流をすすめた。外国での生活の様子を教えてもらうことで，日本の生活とのちがいを理解し国際的な町づくりを推進する資料として活用していくことができた。

（２）情報収集　（話す）

子どもたちの設定した課題は，だれにでもわかりやすいキャッチフレーズにすることで身近なものを設定した。

・みんなが元気で安全に住める町　・Welcome！守っていこう光り輝く福崎町　・心のふるさと歴史のかおる福崎町　・自然もりもり福崎町　・自然を学び自然を守る福崎町など　人　生活　自然に分かれるキャッチフレーズ課題を設定した。そして，自分たちの夢の町に近づけていくためには，今の町に何が必要なのかを確かめるため情報収集に取り組んだ。

（３）夢の町をつくろう（つくる）

今までの活動をとおして夢の町に向かって学習をすすめてきた。設定した課題と実際の町の情報収集によって自分たちの夢の実現に向けて取り組めることは何かを考え主体的な活動へと発展していった。子どもたちのつくる夢ある町プランは，実践した活動の上にさらに多くの理解者を増やして実現に近づける活動に広げてきた。

・大きな夢の町模型をつくろう。　・ホームページにして伝えよう　・私たちの思いを印刷して地域の家庭に配ろうなどに表現させながら発信している。

４．まとめ

子どもたちの学習は家族の協力を得たスタートであったため，学習経過についての家族間の対話が継続された。学習の様子も保護者に関心をもって見つめていただき，子どもたちの課題追求のプロセスにおいても多くの支援をいただくことができた。子どもたちの課題設定に多くの時間を使った学習計画を設定したことで地域を見つめる目を育てることができた。行政の学習を町づくり課題に並行して進めることができたことも子どもたちの問題解決につながる結果となった。　保護者・地域を巻き込んでの学習は，子どもたちの意欲の継続，課題の広がりに大きな追い風となって学習が進行してきた。町長への子どもたちの「夢ある町　福崎町　福小プラン」の提案は，これからの町づくりに役立てるという回答をいただいた。子どもたちの地域へのかかわりは，新しい課題へと広がり，奉仕的な活動を含めた積極的な地域参加に進むことを期待したい。